

大谷学会 研究発表会

2024年

日時

10月25日 金

13:00~16:10 (開場12:30)

入場無料

事前申込不要
一般来聴歓迎

会場

大谷大学メディアホール (響流館3階)

〒603-8143 京都市北区小山上総町 (地下鉄北大路駅6番出口すぐ)



13:10~

最善世界と悲劇の問題

—ライブニッツ、ニーチェ、ドゥルーズの遠近法主義について

平田 公威氏

大谷大学助教【西洋哲学】

苦難に耐え、苦痛に喘ぎ、この世界を呪うひとを前に、哲学は何を語りうるのだろうか。それも、同じ苦痛を味わっていない場合に。本発表では、この問題について、フランスの哲学者ジル・ドゥルーズ (1925-1995) を導き手に思索する。



13:50~

野宿者と住民票

—コロナ禍の定額給付金の事例をもとに

渡辺 拓也氏

大谷大学助教【労働社会学／都市社会学】

日本社会ではさまざまな権利が住民登録に結び付けられており、野宿生活の困難は単なる住居の喪失ではないことが指摘されてきた。本報告ではコロナ禍の定額給付金をめぐる支援の事例をもとに、この問題を再考する。



14:40~

より深い省察のために指導者は 何ができるのか？

梶井 大輔氏

大谷大学准教授【教師教育学】

中教審答申 (2022) で学部段階の養成教育においても「理論と実践を往還させた省察力による学びを実現」と示されているように、省察の重要性はますます高まっている。学生がより深い省察をするために、指導者の支援の在り方について実践をふまえて考察する。



15:20~

真宗大谷派寺院における 地域子育て支援活動としての文庫活動 —京都市内の寺院に着目して

川瀬 綾子氏

大谷大学講師【図書館情報学】

本研究の目的は、京都市内の真宗大谷派寺院における子ども文庫活動に着目し、実施寺院数の把握、活動の規模、具体的な内容を明らかにすることである。これにより、寺院における子育て支援としての文庫活動の現状と課題を考察する。

